

第4期三田市教育振興基本計画検討委員会（第2回）会議録

令和8年3月3日（火）10時00分～12時00分

三田市役所南分館 601会議室

日 時	令和8年3月3日（火） 午前10時00分から午前12時00分まで
開 催 場 所	三田市役所南分館6階601会議室
出 席 委 員	吉水委員長、仲矢副委員長、 大西委員、尾上委員、齊藤委員、谷口委員、川原委員、藤井委員、小山委員、久後委員
欠 席 委 員	山口委員、下中委員
事務局出席者	加嶋教育長、山本学校教育部長、井上学校教育部次長、 久保学校教育部次長、上島子ども・未来部次長、榎本市民生活部次長、 井上教育総務課長、上野学校再編課長、西浦学校教育課長、 藤田地域クラブ推進課長、吉田教育支援課主幹、出藏教育研修所長、 宮城学校給食課長、藤田子ども育成課長、神影幼児教育振興課長、 斉藤教育総務課副課長、上仲教育総務課事務職員
傍 聴 人	1名

《次 第》

1.開 会

2.教育長あいさつ

3.議 事

（1）第1回会議録について【資料1】

（2）アンケート調査について

・クロス集計例【資料2-1】

・自由意見まとめ【資料2-2】

（3）第4期計画の骨子案について

①三田市の教育を取り巻く状況・課題整理【資料3-1】

②三田市の教育がめざす姿について【資料3-2】

③計画の体系図【資料3-3】

4.次回予定

第3回 令和8年5月25日（月）14：00～

三田市役所南分館601会議室

5.閉 会

1. 開会あいさつ	
事務局(司会)	ただいまから第2回三田市教育振興基本計画検討委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。司会を務めさせていただきます、学校教育部次長の井上でございます。本日、委員の皆様は12名中現在名の方ご参加いただいています。下中委員は欠席とお伺いしています。山口委員につきましては、少し遅れるもしくは閉会まで間に合わないということの連絡をいただいています。ですが、過半数以上の出席をいただいておりますので、会議が成立しているところをご報告をさせていただきます。また、傍聴につきましては、現在1名の方が来られています。
2. 教育長あいさつ	
教育長	皆さんおはようございます。本日は大変忙しい中、この会議にお越しいただき、どうもありがとうございます。3月に入りまして、寒さもどこか和らぎまして、春の訪れを感じるような日が近づいてきました。そんな中で、本日は第2回三田市教育振興基本計画の検討委員会を開催させていただきます。 第1回につきましては、私の方から教育委員会教育長の思いも込めてお話しさせていただきます。委員の皆様からそれぞれ自己紹介と、この基本計画検討委員会にかけの思いのようなものをいただきました。本日は、議事録の3番「議事」に従って進めます。限られた時間でございますが、忌憚なきご意見をぜひいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	それでは、資料の確認をいたします。本日の当日配布資料として、資料の2 アンケート調査結果ご報告書を机の上に置かせていただいています。それ以外の資料1、資料2、資料2の1、資料2の2、3の1、3の2、3の3につきましては、事前に送付をさせていただいています。また、会議中に補足等がございましたら、申し出ていただければと思います。 それでは、以降の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
3. 議事	
委員長	初めに、第1回の会議録についてということで資料1です。前回、フリートークで委員さんからご意見いただきました。会議録ももう既に確認されていると思いますが、何か補足等ありましたらよろしくお願いいたします。大丈夫でしょうか。 (意見なし)
委員長	では2番目です。三田市の教育に関するアンケート調査結果報告につい

	てご説明いたします。前回委員会では、アンケート結果の先行資料をいただきました。結果報告は事務局からお伺いしまして、議論につなげていきたいと思います。事務局の方お願いします。
事務局	資料２、２-１、２-２について説明
委員長	アンケート項目について、特に今の時点で気になったことなどありますか。三田市は体育館の冷暖房はついていませんか？
事務局	冷暖房はまだついておらず、３月議会でいくつかの学校については設計業務の委託費を提案している状況です。
委員	体育館の冷暖房などは、再編が検討されている中で入れるに入れられないという事情もあると思います。耐震化は終わったと思いますが、再編について決まらない限りは進めないのではないかと思います。第１次避難所は主な小学校が指定されていると思いますが、中学校は第２次避難所になっていると記憶しています。そのため、小学校は冷暖房が必要だと思いますが、足りなかった場合は第２次避難所として中学校が開かれると思いますので、再編の際は、中学校も含めて三田市全体で検討していただければと思います。三田市全体の予算と施設への費用の確保を、防災と学校の施設全体で考えていただければと思います。
事務局	学校への投資的な事業っていうのは、やはり再編のことを考えなければならぬと思っています。ただ、今いる児童生徒は再編をすべて待ち、何もしないというわけにもいかないの、その辺は内部の検討は必要かと思っています。 避難所につきましては、水防については小学校がメインかと思います。また、地震になれば中学校も開かれるというところがあったと思います。
委員	資料２の表の中で、「不明・無回答」が１００％とありますが、こちらは間違いではないでしょうか？
事務局	こちらの１００％という数字は間違っておりまして、実際には年齢が分からない方が１人おられます。
事務局	今の部分ですが、クロス集計になっていまして、３０歳未満や３０歳代など、横に見ていただくと、それぞれの属性ごとの回答の割合を示しています。一番下の不明・無回答、年齢の回答がなかった方が１人だけいらっしゃいます。

委員	やって、その方の回答がこの 1 つ目と 2 つ目の項目にありましたので 100%としているのですが、分析上は意味がないところになりますので、誤解を招くところは今後出していく時には気をつけてまいります。 塾に行かなくても良いレベルにしてほしいと意見がありましたが、特に英語はテストの点数の高い子と低い子の二極化をしています。英会話教室や塾にいくと点数の高い子、行っていない子は低い子になっており、本来は中間の点数の子が 1 番多くなる山型になるはずだと思います。小学 6 年生の私の息子が中学生から話を聞くと、トライやる・ウィークで来たときに、「英語は小学生から根詰めてやってほしい、すぐについて行けなくなってしまう。」ということを言われました。それも私としては気になります。小学校の英語の授業は会話に重きがおかれ、文法はまだよい、楽しむことに重点を置いているように思います。ですが、中学校では文法を覚える必要があり、ついていけない子が増えるのではないかという意見を聞いています。小学 5 年生・6 年生は週 2 回、英語の授業をとっていると思いますが、be 動詞くらいは教えてほしいと思います。ルールがわかった状態で中学校へ進学してほしいです。小学校と中学校の落差が大きくてもったいないと思いました。
事務局	英語教育ですが、三田市では就学前、幼稚園の年中の子どもたちから 11 年間を見据えて英語教育を進めています。幼稚園の子たちには英語の音やゲームを通して行っているということで、学習指導要領では 3 年生から外国語活動として進めるのですが、三田市では小学校 1 年生、2 年生で今は年間 5 回、英語に親しむという時間を設けています。3 年生からは学習指導要領にある週 1 回の外国語活動、小学 5、6 年生からは週 2 回の外国語の授業として進めています。その中でアルファベットに親しむ、また発音の練習なども行いますが、その授業の中に A L T や地域の外国語サポーターに小学校の授業の約半分に入っていただき、例えば「あなたは何が好きですか?」「私はこういう食べ物が好きです。」といった会話を通して、英語の文法に触れていくというところはやっていました。中学校では、これまでから英語を授業としていますが、11 年間を見据えた中で英語教育を推進しています。
委員長	就学前から取り組んでいるということですが、小学校から中学校でギャップがあるというご意見かと思しますので、そちらは少しご検討いただければと思います。アンケートの中身に具体的に立ち戻って考えられればと思います。

委員	市民アンケートの中に学校サイズの項目はありましたでしょうか。またその場合、その学校サイズについて地域別に比較分析をされていることはあるのでしょうか。
事務局	クロス集計を小学校区別でとっていますので、また個別で資料としてお送りすることが可能です。
委員長	では次ですが、今回のメインの話題かと思いますが、議題3の「三田市の教育の現状について」です。ではまず、三田市における教育の現状・課題について、事務局からご説明をお願いします。
事務局	資料3-1、3-2、3-3について説明
委員	資料3-1の1ページ目、基本施策3の取組22で使用している漢字は、「講和」ではなく「講話」ではないでしょうか。
事務局	修正いたします。また、付け加えになりますが、その横の〈児童生徒〉の中学2年生につきましても、「保険・体育」となっていますが、こちらの字も間違いでございます。
副委員長	資料の3-1（補足）のK P Iについてですが、全国学力調査の結果は目標値を設定するときに、山型になっているようなイメージだと思いますが、尖っている山と平たい山では目標設定の仕方を変えていく必要があると思います。目標設定の根拠がある方が、説明責任が果たせるのではないかと思います。
委員長	100%や0%という目標を設定しなければならないこともありますが、その目標設定が難しいと思います。ただ、相談件数が増えていることや利用する動きが出てきていることを考慮して、目標設定をしていければと思います。 それでは②三田市の教育がめざす姿、③計画の体系図について、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料3-2、3-3について説明
委員	評価について、最終的には右側の施策7、8でまとまっているところですが、私たち評価委員は左側の100項目を見ている中で、例えば7項目と10項目では課がまたいでいたため、そういった観点では今回のようにまと

委員	まっているのは、意見を求めたり、考えを整理したりするのに良いのではないかと感じました。 私も先ほどご意見あったように、非常に分かりやすくなったと思います。第3期のものは学校教育に関する内容と、社会教育的な内容のものが入り組んでいるような印象がありまして、やや分かりにくいところもあったように感じていました。もちろん学校教育と社会教育の協力、それぞれが連動する部分も大事にしなければいけませんが、学校教育と社会教育を分けて整理することで、分かりやすくなったと感じました。 これまで100項目という多くの項目が掲載されてきたのは、三田ならではの特色ある取組が大切にされてきた結果だとも思っています。今回の改定に際して、第3期の施策がどこに、どのように書かれているのか、これまで三田で取り組まれてきた事業がどのように継承されているのかということが分かるような示し方が必要だと感じています。 前回の第3期は紙で冊子が作られていたかと思うのですが、今は様々なデジタル技術がありますので、デジタル冊子等で索引を設ける、リンクを貼っていくなど工夫をしながら、これまでの取組がどのように引き継がれているのかわかるような方法を検討いただければと思います。 また、少し話が逸れるかもしれませんが、近隣の市町では、教育グランドデザインのようなものを作成されています。1枚もののペーパーでイラストや図を使いながらまとめたものです。どうしても教育基本計画はテキストが多く、よほど興味を持って読まない限り全体像を理解することは難しいものです。概要版のようなイメージしやすいものも併せて作成いただくのもひとつの方法かと思います。
委員長	第3期と第4期がどのようにつながっているかなど分かりやすくしていただければと思います。また、かなり細かいところでやらなければならないことを設定してということがありますので、合わせてKPIの設定をしてということもあります。また、立命館の方がされていたようなミッションやビジョンを組織に浸透させるということも重要かと思います。
委員	基本目標の2つ目について、こちら分けているのですが、自分個人的な感覚では「学びの環境整備」という中に「学校、家庭、地域の連携」というのも含まれるような気がするのですが、学びの環境整備の中で地域のことに取り組んだり、安心安全で生きるための学校としても良いのかと思います。過去の流れが3つに分けてきたので、その流れを踏襲ということも分かりますが、まとめることもひとつの方法かと思ったのですがいかがでしょうか？

事務局	今は仮で3つに分けていますが、今後の議論の中で、基本目標を2つに絞るというのも一つの選択肢かと考えています。
委員	民間の団体では、プログラム、リーダーシップ、施設という3つの視点から目標を考えたり、評価の視点を当てたりしており、この3つがちょうど思っていました。さらに必要なこととして、それらを総合したようなマネジメント視点がなければ、実現は難しいと思いました。 別の質問があるのですが、軽度の発達障がいのお子さんがクラスに入っていますが、その人数がどのように推移しているのか、また外国人の子どもたちの人数や割合など、その辺りの変化がどのようになっているか教えていただけますか。私が以前にいただいた統計では、受け入れされている外国人の数は人口 11 万人弱に対して、1,500 人ほどで約 1.5%かと思いますが、私が現在勤務している障がいのある子どもたちの組織は概ね 7%から 10%の外国人の子どもたちが在籍してまして、あまりにも差があるので少しお聞きしました。
事務局	発達障がいのお子さんがどれくらい増えているかという質問かと思いますが、正確な数が今は分からないのですが、特別支援学級に属さず、通常学級で週 1 時間から 2 時間、通級の指導を受けているお子さんがいらっしゃいます。その通級指導を行う拠点校の数で考えますと、小学校では 4 校、中学校が 3 校でした。それが、次年度は現在の予定では、小学校においては 10 校、中学校では 4 校に増加いたします。そのことから考えると、通常学級に属しながら、何らかの教育支援が必要なお子さんが増えている傾向にあるのかと考えています。
事務局	外国人児童生徒の人数ですが、日本語指導が必要な児童生徒につきましては増加傾向です。また、市内に住んでいる外国人の方の人数についても増加傾向です。正確な人数については、また後日ご報告できればと思います。
委員	外国語のデータを出していただく際に、現在三田市で何人いるのか、また対応している外国語についてのデータがあった方が良いかと思います。県の日本語指導支援を県費で続けているかと思いますが、その後も日本語のサポートを三田市が独自で行っているかと思うので、その辺りのデータも合わせて出していただけた方が、今後の話し合いに役立てるのではないかと思います。

委員	第4期計画案について、基本施策2と基本施策6で「幼児期と児童期の接続」に関する項目が重複している気がするので、確認をお願いします。
事務局	確認をして必要な部分は修正いたします。
副委員長	学びの環境整備と教員に対する待遇向上に関する部分に関するのですが、今、非常に先生が途中で辞めておられ、代わりに非常勤の先生などが担任になられるという状況が散見されるかと思います。そこに、教育振興計画を通じてどう計画を立てていくのか。やはり市民が理解し、支持されて予算を確保するという説得力を持つものではあると思うので、その点に関してはご検討いただきたいと思います。
委員長	今の時点でここに含まれることはありますか？
事務局	47番の「教職員の働き方改革」において、計画的な配置に取り組む想定です。おっしゃるとおり、欠員が生じたときの配置については、臨時講師を探すにしてもなかなか見つからないという、全国的な教員不足という状況ですので、募集等に力を入れながら配置しているところです。そういった学校現場を支えるもののひとつとして、さまざまな方法があるとは思いますが、そのひとつが市費で人員配置をしていくことだと感じています。例えば不登校対策を行ったり、外国の日本語指導が必要な児童生徒に対してのサポートであったり、特別支援学級など、さまざまなところに市費で人員を配置していますので、ここに集約されるというわけではないですが、目標ごとにそのような文言が入ってくるのではないかと考えています。
委員長	今ご意見いただいたのは、自然災害が起こったときにはこのように対応しますというような、BCPのようなところもあるかと思いますが、人員の確保についてもそのような観点が必要なのではないかとということかと思っています。当然のことながらマネジメントという話になりますが、そのようなことも恐らく必要になりますので、市でも具体的に考えているとは思いますが、そのようなことを見える化していくべきではないかと思っています。
副委員長	そうすることで、現場で働く先生方としても、「こういったところに反映されたのだな」ということで、心の持ち方が変わるのではないかと思います。
事務局	ありがとうございます。おっしゃるとおり、学校組織のマネジメント力

委員長	の向上を行うなども含めた学校組織の評価、また辞めたいという先生が出ないように、どのような形でチームとして対応をしていくか、そういったところも課題であると認識していますので、そういったところも含めて、大きなこの枠組みの中ではありますが、差し込んでいきたいと思っています。 それではお時間が近づいてきましたので、本日ご意見いただいたことを簡単にまとめさせていただき、次回以降の議論を行う流れにさせていただきます。 アンケートのところでは、小中の外国語教育の充実について、ギャップがあるのではないかとというご意見がありましたので、計画の中にも入れていただいています、具体的な対応についても検討いただきたいと思います。 また体系図につきましては、よく整理されているのではないかとということで、全体的には分かりやすいものに仕上がっているかと思います。各項目の中には、三田ならではのものがあり、これは1回目の時にも少しお話があったかと思いますが、やはり三田ならではの重要なことですので、それが上手く継承されるように、分かりやすいように整理されてほしいと思います。それから全体の体系としては、基本目標が3つとなっていますが、最終的により整理ができるのではないかとような意見がありました。またインクルーシブ教育についてはデータを共有してほしいというご要望もありましたので、こうしたものを参考にしながら、今後はどのように進めていくのかということ、施策の中で重なりもありますので、そういったことも再度見直しをしていただくのが良いのではないかと思います。また、人員のことも難しいと思います。私のところにも毎年、4月5月頃にも人員が足りないというご連絡をいただくことがあり、全国的にそういった状況かと思いますが、人員確保を全国的にできるような形で明確化していただけると、先生方も助かるということで、安心感が高まるのかと思っています。 それでは、今回出た意見等を次回の審議に反映できるように、事務局の方もご検討をお願いします。今後の予定についてですが、本日議論した内容をもとに施策体系を固めていくことになるかと思います。施策体系に基づいて、次回以降の検討会では、第4期計画の具体的な内容、基本施策から具体的な取組、進捗状況の指標等についての議論を進めていくことになります。ボリュームがございますので、2、3回に分けて進めていくことになるかと思いますので、よろしくお願いいたします。また資料3-2に、三田市の教育が目指す姿について、事務局の方から検討くださいということで宿題をいただいていますので、ぜひ皆様もお考えいただければと思い
-----	---

	ます。 それでは、議事は以上ということで、事務局にお戻しいたします。
4. 次回予定	
事務局(司会)	次回の予定ですが、5月25日月曜日の午後2時から、場所は同じく601会議室で開催をさせていただきたいと思います。先ほど委員長からもありましたように、次回以降少しボリュームが多くなりますので、2ヶ月間、間を空けさせていただきました。それでは、閉会にあたりまして、山本学校教育部長よりご挨拶を申し上げます。
5. 閉会	
山本部長	本日も市民アンケートの結果報告や、計画の骨子案につきまして、さまざまなご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえて、三田ならではの実効性のある教育振興基本計画となるよう、引き続き検討を進めていきたいと思っています。 次回の開催は先ほどありましたように、5月ということで少し空きますので、もしもそれまでに気づかれたことや、ご不明な点がございましたら、遠慮なく事務局までご連絡いただけたら幸いです。最後になりますが、お足元の悪い中、お越しいただきありがとうございました。

以上